

# 地域の在宅医療を支える国立病院の役割 — トランジショナル・ケアを中心に —

座長 三浦久幸<sup>†</sup> 饗場郁子\*第73回国立病院総合医学会  
(2019年11月9日 於 名古屋)

IRYO Vol. 75 No. 1 (51–53) 2021

## 要旨

国は、超高齢社会への対応のため、地域医療構想による病床再編や、在宅医療の推進を軸とした地域包括ケアの構築を進めている。この、“病院完結型医療”から“地域完結型医療”への大きな流れの中で、今後、それぞれの病院がどのように地域医療に役割を果たすかが問われている。とりわけ、地域医療を守る公的病院としての国立病院の果たす役割は大きいはずであるが、一方で、在宅医療を中心とした地域医療に十分にコミットしているとはいえない状況にある。このため、このセッションのテーマを「地域の在宅医療を支える国立病院の役割—トランジショナル・ケアを中心に—」とし、入院中だけではなく、退院後も引き続き地域での医療・ケアの提供やアウトリーチ（トランジショナル（移行期）ケア）を実践している病院や、実際にアウトリーチ等を行っていないまでも退院後を見据えた対応を行っている全国の国立病院の多職種に実践報告を依頼した。今回のシンポジウムでは、病院からの医師を中心とした訪問診療、看護師を中心とした退院後訪問、病院からの多職種チームによる訪問医療、入院時から退院後を見据えた、病院薬剤師の役割、セラピストによる退院前訪問による早期からの在宅療養支援と、さまざまな形態による地域の在宅医療あるいは在宅療養支援の形の提示があった。地域の違いにより、それぞれの病院の役割は異なるはずであるが、いずれも病院と地域との連携を推進しつつ、入院中のより早期から、あるいは退院後も継続的に病院が支援していくことの重要性が強調された。このシンポジウムを通じ、国立病院もそれぞれの地域との連携は不可欠であること、病院内の専門職は地域の貴重な人的資源であるという視点に立てば、多職種それぞれが、地域に各専門性を還元することでさらに地域が育つことにつながり、その役割は重要であろうことが共通理解できた。

キーワード 国立病院, 在宅医療, トランジショナル・ケア

## はじめに

国内の超高齢社会において、後期高齢者の増加にともなう疾病構造の変化により、慢性疾患をもちな

がら地域に暮らす高齢者が増加している。さらに、将来、自らが受ける医療・ケアの内容を決めたいという高齢者も増加している。国は、これらの状況に対応するため、地域医療構想による病床再編や、在

国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部, \*国立病院機構東名古屋病院 脳神経内科 †医師  
著者連絡先: 三浦久幸 国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部  
〒474-8511 愛知県大府市森岡町7丁目430番地

e-mail: hmiura@ncgg.go.jp

(2020年3月18日受付, 2020年5月8日受理)

The Role of National Hospital Supporting Regional Home Medical Care : Focusing on Transitional Care

Hisayuki Miura and Ikuko Aiba\*, National Center for Geriatrics and Gerontology, \*NHO Higashinagoya National Hospital

(Received Mar.18, 2020, Accepted May 8, 2020)

Key Words : National Hospital, home medical care, transitional care